

筑波大学大学院博士前期課程
人間総合科学研究科生涯発達専攻
リハビリテーションコース

平成 31 年度入学試験

論述試験問題

[注意]

1. 問題は、問題 1 と問題 2 の 2 問です。
問題 1 は、(1) と (2) と (3) の 3 つの設問からなっています。すべての設問に答えてください。
問題 2 は、(1) と (2) の 2 つの設問からなっています。すべての設問に答えてください。
2. 答案用紙は 400 字詰め 5 枚、下書き用紙は 5 枚あります。
答案は、設問ごとに答案用紙 1 枚にまとめて記載してください。
答案用紙の裏面は使用しないでください。
下書き用紙は、自由にお使い下さい。
3. すべての答案用紙に必ず受験番号を記入してください。
4. 各答案用紙の欄外の左上に、問題番号[問題 1 (1)、問題 1 (2)、問題 1 (3)、問題 2 (1)、問題 2 (2)] を明記してください。
5. 試験終了後、問題用紙と下書き用紙も回収しますので、持ち帰らないでください。

問題 1

図 1 は 6 歳未満の子供を持つ妻と夫の家事・育児関連時間（1 日当たり）の国際比較を、図 2 は我が国における夫の休日の家事・育児時間別にみた第 2 子以降の出生の状況を示したものである。

- (1) 図 1 及び図 2 から読み取れることを 400 字以内で述べなさい。
- (2) (1) で読み取った内容に基づき、我が国の家事・育児に関する課題について、あなたの考えを 400 字以内で述べなさい。
- (3) 図 1 に示した家事・育児関連時間について、夫の時間を 1 としたときの夫と妻の家事・育児関連時間の比率を、日本とスウェーデンについてそれぞれ求めなさい（少数第 2 位まで）。

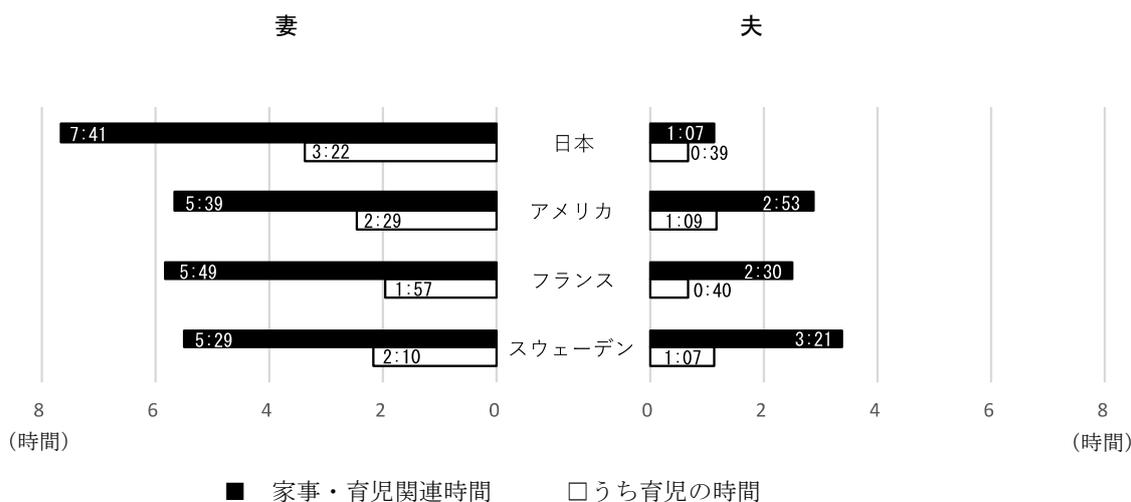


図1 6歳未満の子供を持つ夫の家事・育児関連時間（1日当たり・国際比較）

- (備考) 1. Eurostat “How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men” (2004)、Bureau of Labor Statistics of the U.S. “American Time Use Survey” (2015)及び総務省「社会生活基本調査」(2011(平成 23)年)より作成。
2. 日本の数値は、「夫婦と子供の世帯」に限定した夫と妻の1日当たりの「家事」、「介護・看護」、「育児」及び「買い物」の合計時間（週全体）である。

資料：内閣府資料

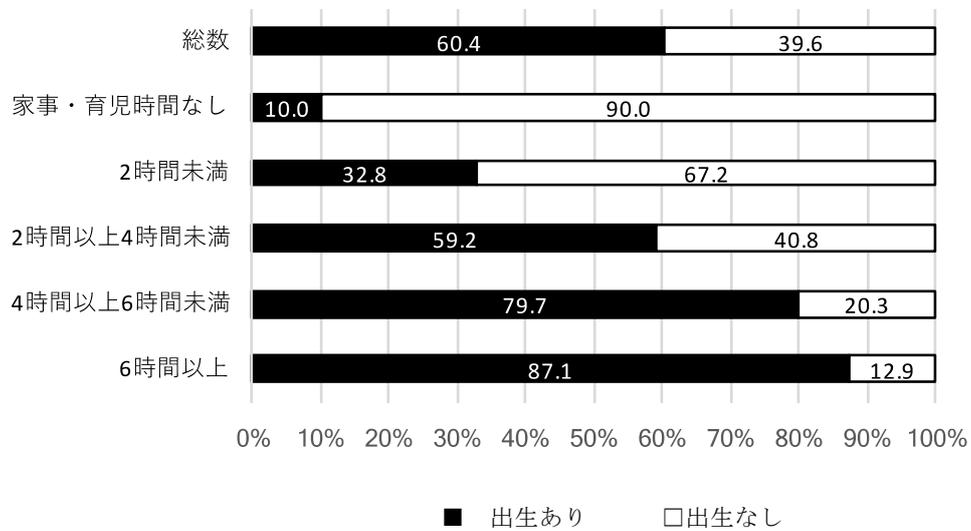


図2 我が国における夫の休日の家事・育児時間別にみた第2子以降の出生の状況

資料：厚生労働省「第14回21世紀成年者縦断調査（平成14年成年者）」（2015年）

注：1. 集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当する同居夫婦である。ただし、妻の「出生前データ」が得られていない夫婦は除く。

①第1回調査から第14回調査まで双方から回答を得られている夫婦

②第1回調査時に独身で第13回調査までの間に結婚し、結婚後第14回調査まで双方から回答を得られている夫婦

③出生前調査時に子ども1人以上ありの夫婦

2. 家事・育児時間は、「出生あり」は出生前調査時の、「出生なし」は第13回調査時の状況である。

3. 13年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

4. 「総数」には、家事・育児時間不詳を含む。

問題2

別添の文章（6頁～10頁）は、上田紀行著『生きる意味』（岩波書店，2005年）の一部を抜粋したものである。この文章を読んで、以下の（1）と（2）の設問に答えなさい。

- （1） この文章の要旨を 400 字以内で述べなさい。
- （2） あなたが関わっている仕事あるいは研究を通して筆者の述べていることについて 400 字以内で論じなさい。

本文は著作権法により公開しておりません。